

和歌山市議会議員 戸田正人 市政報告通信

STAY DREAM



●発行者：和歌山市議会 絆クラブ ●編集者：和歌山市議会議員 戸田正人
●連絡先：〒640-8156 和歌山市七番丁23 和歌山市議会絆クラブ 073-435-1115

去る6月吉日、私が所属する和歌山市議会最大会派「絆クラブ」の幹事長を仰せつかりました。

また、市の計画や税金など本会議で付託された事項について審査してきた総務委員会委員長から、議会の議事運営、議会における選挙等、議会運営上重要と認められる事項について協議する議会運営委員長と就任いたしました。

会派の代表として会派所属議員から満場でご推挙頂き、また議会で要職と言われている議会運営委員長においても全会一致でご推挙頂き、身が引き締まる想いと同時に皆様方のご期待に添えるべく日々精進してまいる所存です。



議員定数と任期

議員定数の法定数は46名ですが、和歌山市議会では自ら制定した条例により38名としています。任期は4年で、現在の議員任期は平成23年5月2日から平成27年5月1日までとなっています。

会派構成

平成26年9月1日現在、和歌山市議会の会派は、4会派と無所属で構成されています（欠員1名）。絆クラブ12名 市民クラブ10名 公明党議員団8名 日本共産党和歌山市議員団6名無所属1名

議会は決定者、監視者、提案者、提起者

決定者→提案される予算、条例、主な契約など主要案件の決定者。

監視者→市長に代表される執行機関の活動や予算、条例、契約などの監視者。

提案者→市長提案の政策変更を議論するだけでなく、自ら様々な政策や条例を提案する提案者。

提起者→有権者に議会の判断を説明し、争点の提起や民意の集約を行うなど争点提起者。



議会は市長と違う3つの強みがある

- ①議会は合議体であるため、審議の場で市民の声が反映されやすく、言わば民意を鏡のように映す機能を担っている。
- ②審議を通じて合意形成を図るため、様々な意見を集約、調整しながら方向性を定めることができる機能を有する。
- ③民意、公平、能率の確保などの点から監視し是正することによる執行機関を監視、統制、牽制する機能を担っている。

国と同様に、地方自治体の政策にも「政治」があって「行政」があります。行政機関の意思を追認するのが政治の役割ではないと考えます。地方分権が進むなか、地方議会における責務、役割が今後より重要視され、二元代表制の一翼を担う政治集団として将来ビジョンを示し、既存のルールを変えていくことが政治であると思うのと同時に、政治はあきらめたらアカンという信念を持ち続けたいと思います。

市長も政治家であるが、どちらかという行政の最高責任者という性格が強く、地方政治の中心というわけでもない。議会制民主主義の自治体における政治機関の中心は、やはり政治家集団からなる議会であると考えます。

開かれた議会づくり

地方議会は市民の方々に最も身近な議会であり

ながら、意外と遠い存在と見られがちです。

今までの和歌山市議会では、本会議場における議事録は紙ベースかインターネットで閲覧することしかできず、最終決定に要した議論やプロセス、生で行われる討論内容などは不明慮で、その結果議会内で行われている様々な事象が、市民の方々に伝わりにくく身近でありながら遠い存在の議会へとなってしまったのではないかと思慮するところです。

和歌山市議会改革

- ①和歌山市議会では本会議のインターネットでの生中継を開始し、過去に行われた一般質問でも映像保存しているため閲覧できるように変わりました。
- ②各議案の議決に対する議員ひとりひとりの賛否をホームページ、市議会便りなどで公開するようになりました。（2007年議会改革白書によると議員個人の賛否公開は4%）
- ③議会政策条例策定協議会を立ち上げ、議会自らが策定し提案した条例が制定されました。
- ④議会広報委員会をよりパワーアップさせ、市議会便りの充実を図り、議会活動をより理解して頂けるよう努めています。

今までのような受動態の議会ではなく、積極的な情報公開などにより議会内での議論を透明化し、また、市民の方々に様々な情報を投げかけ共感していく、そして民意を集約し市政に反映させていく事が、新たな議会の姿であり、身近な政治として市民の方々に再認識して頂けるものと考えます。



さて、私は日々の活動や雑感などをインターネットのブログやフェイスブックなどを中心に週3回から4回程度の頻度で発信しておりますが、この度活字による会報通信として若干の編集を加えながらまとめさせて頂きました。ぜひ、ご笑覧くださいませ。

高島屋和歌山店閉店

昨年の12月26日、1973年5月にオープンし約40年間和歌山市の代表的なデパートのひとつとして栄えてきた高島屋和歌山店が今年8月末で閉店しました。

最盛期の1991年には65億円の売り上げを計上した高島屋和歌山店は、南海電鉄和歌山ビルの核テナントとして集客に貢献してきましたが、近年の売り上げ低下などにより約10年間赤字が続き、2012年の売り上げは21億8800万円と最盛期の三分の一に落ち込んだとのこと。また、本市郊外に「イオンモール和歌山」が開業された事や消費税増税などを挙げ、赤字を黒字転換に改善する見込みがないと判断され撤退が決まった、とのことでした。なんと寂しいことです。

本市においては平成10年には大丸百貨店、13年には丸正百貨店と相次いで撤退、倒産

し、今回大阪なんばから和歌山市の玄関口のデパートとして密着し貢献してきた高島屋までもが姿を消すこととなりました。また、市駅前商店街により拍車をかけた衰退や市街地の空洞化なども懸念され、多くの和歌山市民は、駅周辺の商店街、本市の文化ゾーンと呼ばれる市民会館、図書館、博物館、本市公共交通の要となっている和歌山バスの存続などなど、和歌山市駅前周辺、それに関する機関や機能が今後どのようになっていくのか、非常に懸念されているのです。

そして、駅前周辺の本丸ともいえる南海和歌山市駅においても高島屋が撤退し、駅ビルが老朽化している状況で、実際、南海和歌山市駅ビルは今までと同様に存続されていくものなのかどうか。このままでは、耐震や老朽化が懸念されている明治時代に建設された紀ノ川橋梁（南海線の鉄橋）の架け替えが行われず、和歌山大学前ふじと台駅で終点折り返しになってしまうのではないかとといった市民からの声を、私は頻繁にお聞きするのです。

和歌山市行政についても、市駅前周辺再開発などのビジョンが乏しく、具体的な方向性が定まっていないのではと私の認識しております。和歌山市行政の市駅前周辺におけるビジョンが

定まっていない故、今後の和歌山市駅周辺における景気や消費の動向、人の流れなどが全く見えず、赤字解消が見込まれないと判断した高島屋が撤退を決定、加えて南海和歌山駅ビルも今後の耐震老朽化対策として駅ビルの建て替えなどの具体的ビジョンが発表されていないのです。また、市駅前周辺における希望のない噂ばかりが横行し、市民が本市まちづくりに夢や希望を持つどころか不安ばかり募っているのが現状ではありませんか。まさに、市駅前周辺地域で夢や希望を失った「負のスパイラル」がおこっているのです。



さて、そのような状況のなか、尾花新市長が所信表明の中で活気のある街づくりを実現していくと述べられ、駅周辺に居住施設や集客施設を整備していくなど中心市街地についての思いを示されました。今後、私も議員として積極的に駅前周辺再生に向けたアイデアを提言していくと共に、駅ビルを所有する南海電鉄などと連携して対策を協議する方策など働きかけていきたいと思えます。

台湾との観光政策はこれだ！

日台友好和歌山市議会議員連盟幹事長として、寒川議長、松井会長らと共に台湾領事館にあたる台北駐大阪経済文化弁事処を訪問し、5月に訪問した台北市紀州庵などの成果を報告してきました。（写真は領事館長にあたる蔡明耀処長と）

過日の台北市紀州庵などの訪問の成果を報告してきました。紀州庵とは、和歌山市スーパーヒヤマツの創業者平松氏が、戦前台北市で開店した日本料理店であり、戦後は台湾政府により維持管理されてきました。その後、台北市により同敷地内には新館を併設。紀州庵は台北市の文化施設として若手有名作家を輩出するなど文化振興の拠点として活用されてきました。紀州という呼び名を今のなお継承されており、日本は和歌山市と台湾は台北市との歴史的な友好の証といえるでしょう。



さて、約二時間の意見交換会で今後の和歌山と台湾間の発展に向けたヒントを見出すことができました。それは、新たな関西エリアにおける観光ルートを構築すべきでは、ということです。



基本的に台湾から来られた観光客は関空に到着後、大阪、京都、奈良などの順で関空を拠点に時計回りに観光をされます。しかし、日本つうの台湾の方々からすると、この観光パターンはそろそろ飽きてきたルートとなっているようです。

そこで、関空を拠点に和歌山市、白浜、那智、熊野、伊勢、高野山などをルートとする逆回りパターンを構築したら面白いのではと考えました。

もちろん、京都や奈良にない魅力ある和歌山県の文化遺産や観光スポットなどを全面的に押し出すとともに、和歌山市内に一泊すると何らかの超お得な特典が付いてくるなどの政策を官民あげて講じるのです。日本つうの台湾観光客なら、きっと興味を持ってくれると思うと同時に、和歌山県内に様々な効果やクリエイションを与えてくれるものと思います。まさに今、地方自治体が外交をし、独自で外貨を獲得する時代が到来しているのです。



ワクワクする街には、信念を持ったリーダーが存在する？

和歌山市行政をより市民に身近に感じてもらい先進的な改革をしたく、様々な取り組みをされている全国の自治体へ行政視察に行く機会を頂いていますが、アッと驚くような取り組みをし、ワクワクするような街や、とても元気で躍動され市民に愛されている街などには共通すべき点があるのです。それは、「情熱と揺るぎない信念を持ったリーダーが存在している」と言うことなのです。

**型破り！
公務員らしくない！
情がある！
判断力がある！
リーダーシップがとれる！
ヤンチャ！笑**



無論、政策を実現していくためにも和歌山市職員の力も必要です。ちなみに和歌山市も優秀な職員が沢山いますが、まだまだ能力を100%発揮するまで至っていません。

それは、彼らの背中を強力に押しあげ、全

責任を取るくらいの覚悟を持ったリーダーが存在していないことが原因であるとも考えます。和歌山市の浮上に必要不可欠な政治的リーダーを選ぶのは市民の皆さんひとりひとりです。元気で活気のある和歌山市を取り戻したいものです。

政務活動費

昨今、号泣議員が世間を騒がせてから、一部の地方議員における政務活動費の使途不明金が新聞やテレビ等で報道され、多くの市民から信頼を失墜させているだけではなく、一生懸命活動している他の議員にとっては非常に迷惑な話であります。

いずれにしても、議員は議案に対する可否などの理由や、自分自身の態度や言動、全てにおいて説明責任を果たす義務があると思います。政務活動費の不正受給などは言語道断であり、説明のつかない用途はあってはならないと思います。

私達和歌山市議会での政務活動費は会派ごとに支給され、一人あたりにすると月10万円となります。私が所属する和歌山市議会絆クラブでは、



1円単位まで記載された金額と使用目的を確認した上で、それらの領収書と引き換えに支給します。また、出張旅費に関しても当たり前に目的地や旅費などを明確にし、視察内容のレポートや資料を添付した上でその都度支給することにしており、各々政策立案や調査研究、市政報告などのために有意義な活用をしています。

ワクワクするような和歌山市民図書館を創りたい！

鳴り物入りで設置された市民図書館も約30年以上が経過し耐震補強工事や老朽化対策を講じる必要が生じています。また、貸出し冊数も全国平均5.4冊を大きく下回る市民一人あたり2.2冊であり、この数字は、中核市42市中42位の最下位なのです。

市民図書館は市民に広く利用されているというよりも、図書館のヘビーユーザーのための施設となっているのではと思慮すると共に、約30年前にオープンした時のように多くの市民に愛され利用されたた図書館を取り戻したいと考えました。また、もうひとつの理由として図書館を街づくりの起爆剤として取り入れて大成功を収めている自治体もあるからです。

例えば、指定管理者制度を導入し民間会社に運営を任せてはと思うのです。

公務員や図書館司書はレファレンスなどの専門的なことについては非常に優秀ですが、市民のための運営という観点では非常に弱さを感じるのです。彼らのアイデアだけでは思いつかない、図書館に普段来られない市民に対して行きたくなるような図書館創り出すには民間の力を導入すべきと考えるのです。

民間ならではの奇抜なアイデアや常時行なわれるイベント、図書館に行けば何らかの情報が発信されている（恋愛、ビジネス、司法相談、



おまけに僕の市政相談があるかも）、何がおこるか分からない図書館を民間企業や市民の方々と共に再構築してみたいと考えるのです。写真はスターバックスコーヒーが併設されている佐賀県武雄市民図書館ですが、カフェを飲みながら本が読めるという、とてもユニークな試みが功を奏し、多くの観光客が訪れるきっかけとなり武雄市の経済効果にも寄与しているのです。

徳島市立図書館も視察させて頂きましたが、こちらもユニークな図書館なのです。

徳島市立図書館は、JR徳島駅前のそごう百貨店を含む商業施設に移転し、いわばデパートの中に図書館が設置されているような複合型施設なのです。

お互いのポテンシャルを生かしながら上手く集客に務めておられるようで、図書館の取り組みも地元Jリーグ徳島ヴォルティスとのコラボなど、地域の



特徴を生かしており素敵な取り組みをされていました。また、商業施設の売り上げも前年度比120%の伸びを示しているようで、市民にとっても、行政にとっても、商業施設にとっても思わぬ効果がでているようです。地元企業の大塚製薬オロナミンCじゃないけれど、元気ハツラツの図書館でした。

ちなみに徳島市立図書館も民間事業者が運営管理者でした。

誇れ！和歌山弁

以前テレビ番組で、和歌山弁のザ行とダ行の区別がつかないとのことが取り上げられ大反響だったようです。

全部どうぞ→でんぶどうど

雑巾でお膳拭いて→どうきんでおでんふいて

像さん→どうさん(笑)

なぜ和歌山弁がザ行とダ行の区別がつかないのかと僕は気になり始め、ついに図書館まで調べに行きました。結局、様々



な資料を読んだにもかかわらず明確な事実がわかりませんでした。一番理解できたことは、方言というものは、その地域で長い歴史を経て口から口へと伝えられてきた大切なコトバであるということ。いわゆる、地域の文化でありアイデンティティであるということでしょう。まさに、心のよりどころかもしれません。

これからも、和歌山弁を守り大切にしていきたいものですね。

姫路城と和歌山城、同じ城下町でもなぜ街づくりに違いがでたのか

写真は、全て姫路城内、いわゆるお城の中です。

本来、場内では文化財保護法という法律により建造物は許可しない、樹木一本植え替えるのにも文科省の許可をとらなければいけないなど、とても厳しい法律下で管理されています。

そのため、城内に観光的政策を講じようとしても、みやげ物屋や食事処、道路整備などの建造物を自治体の独自判断で建築できないとされています。しかし、姫路城内は写真の通り、様々な建造物が設置されているのです。

姫路駅から100円で乗れるループバスが発車しています。これは、姫路駅周辺施設、詳しく言えばお城周辺ではなく城内を循環しているバスです。

ここ姫路城の城郭は和歌山城と比べものにならないくらい城内は広域ですが、同じ文化財に指定された城内に道が走り、みやげ物屋や飲食店があり、観光客も市民も姫路城がテーマパークであるかのように楽しんでおられ、お城を中心とした街づくりを市民一丸となって行ってきた、街づくりに対する理念の違いが顕著に現れていることを目の当たりにしてきました。





なぜ、和歌山市と姫路市が同じ中核市であるにもかかわらず違いがでているのでしょうか。

基本的にお城や図書館、博物館などは教育委員会が所管しているのですが、教育委員会は文化振興や教育に力点を置いた組織であり、街づくり、観光といった目的は畑違いなのです。

しかし、姫路市教育委員会は理念が違いました。「私達文化財を保存管理していくのが大前提ではありますが、文化財こそ市民に見て頂いて、理解して頂いてのこと、したがって教育委員会でも観光、街づくりを常々念頭においての文化振興に務めている」と姫路市文化財課の職員さんから力強いお話をききました。にまさに理にかなったお話しです。

くわえて、戦後すぐに姫路市が中心となり国や県と共に、お城を中心とした街づくりの基本計画を策定、約40年以上に渡って街づくりに

取り掛かった結果が姫路城と和歌山城との違いに表れてしまったのではないかと思います。

ローマは一日にて成らずではありませんが、姫路市のお城を中心にした街づくりを参考に、和歌山市が中心となり国や県、市民を含めた「和歌山城基本計画」を円卓会議で再構築し、一丸となって10年、20年先を見据えたランドデザインを描くべきと考えます。きっと、和歌山城内においても伊勢神宮のような「おかげ横丁」やカフェ、みやげ物屋やお食事処、雑貨屋さんなど、和歌山城の新たな可能性が見出せるのではと大きな期待を持ちながら和歌山市行政に提言してまいります。

和歌山市議会議員

やまもと

